

と頁

おとさだ

第48号 通巻9巻第7号
1990年1月1日 発行

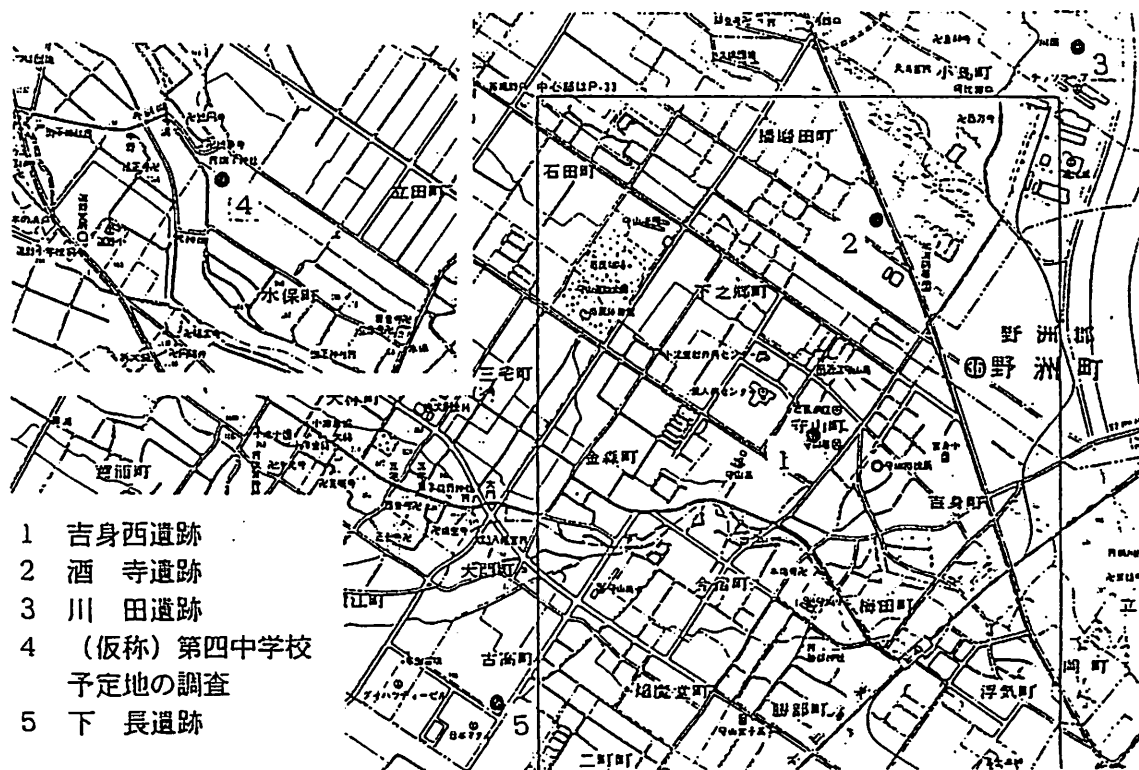
守山市立埋蔵文化財センター
80775-85-4397

〒524-02
守山市服部町2250番地

あけまして おめでとうございます

昨年は昭和64年がわずか一週間で終わり、昭和に代わる平成という新しい年号での元年も、あっという間に過ぎ去ったように感じられます。昨年の一年は、数多くの現地説明会や学習会・講演会を通して、文化財の普及啓発につとめてまいりましたが、今年もより一層、市民の皆様の文化財へのご理解を深めていただくため、職員一同、頑張っていくつもりですのでよろしくお願いします。

さて、今号も発掘調査を中心にお伝えします。



- 1 吉身西遺跡
- 2 酒寺遺跡
- 3 川田遺跡
- 4 (仮称) 第四中学校
予定地の調査
- 5 下長遺跡

◆ 調査終了 ◆

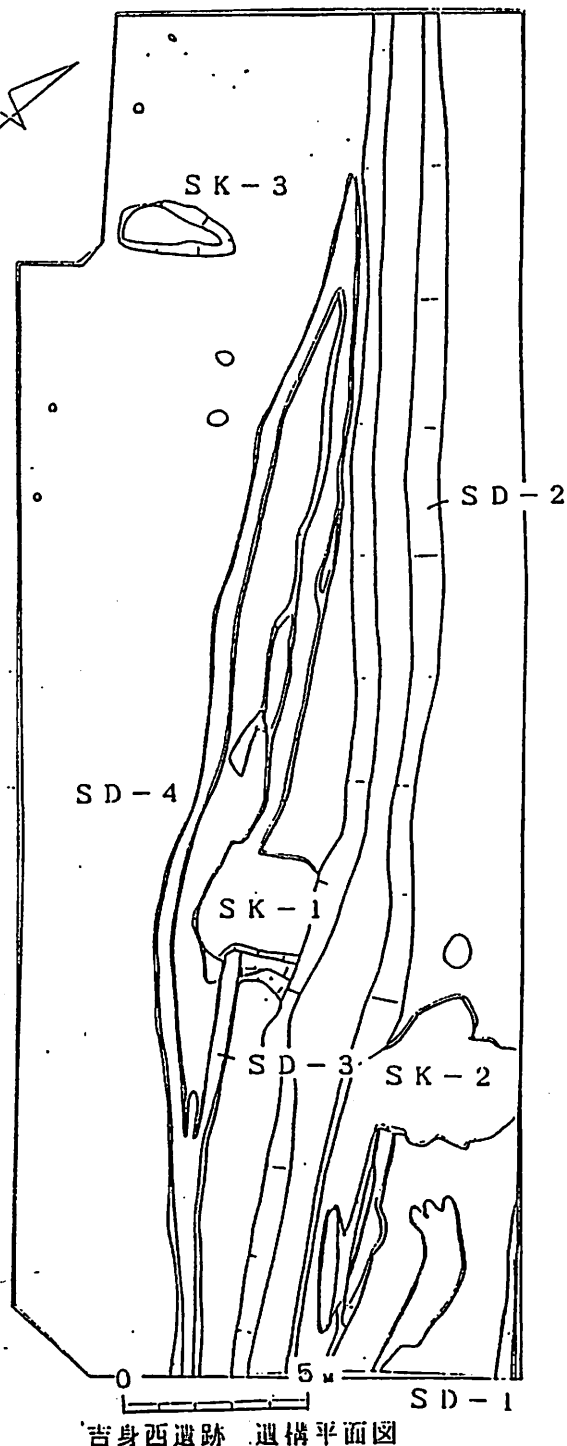
(1) 吉身西遺跡の調査

12月初旬から、個人住宅建築に先立って約600 m²を発掘調査しました。この一帯は昭和60、61年度に土地区画整理事業に伴って調査を実施しており、古墳時代から平安時代にかけての集落跡が検出された地であり、今回もこの遺跡群をつなぐ重要な調査でありました。調査の結果、溝が4条、土壙が3基、ピットが5ヶ所で検出されました。これらの中で、SD-2と呼ぶ溝は幅2.5 m～3 m、深さ0.5 m～0.6 mと大きく、調査前に東西方向に流れていた水路にほぼ平行に流れており、出土した遺物は15～16世紀代の陶器が中心でありました。SD-3は古墳時代後期、4は15～16世紀と考えられます。土壙も大きいSK-1・2は15～16世紀、SK-3は古墳時代と考えられます。溝以外は希薄な状態であり、集落の縁辺であろうと思われま

◆ 調査中 ◆

(2) 酒寺遺跡の調査

47号でお知らせしました調査の続報をお知らせします。11月に現地調査説明会を開



催し、多数の見学を頂きました。遠方から来て頂きありがとうございました。さて琵琶湖大橋取り付け道路から南へ続く18m道路部分の調査を進めています。この部分からは弥生時代中期の方形周溝墓^{ぼうけいしゅうこうぼ}15基、後期2基が見つかっています。弥生時代中期の方形周溝墓は北東から南西方向に約150 m以上も続いており、幅は約30m程になるものと思われます。台状部の一辺が4 m～11mと差があり、溝の深さも東ほど深いものとなっています。回りに掘り巡らせた溝内からは、墓に供えたと思われる壺^{つば}や甕^{かめ}、鉢^{はち}などが出土しています。これらの土器から見て弥生時代中期の終わり頃と考えられ、播磨田東遺跡^{はりまだひがし}、二ノ畦^{にのあぜ}・横枕遺跡^{よこまくら}の居住区とほぼ同じ頃です。後期の方形周溝墓は、東南から北西へ続いており、中期のそれとは90度向きをかえていて約100 mほど続いています。46号で報告した墓も後期になるものと思われます。

(3) 川田遺跡^{かわた}の調査

民間の宅地造成に伴う事前の発掘調査を、昨年11月から開始しました。調査地はチッソポリプロ繊維守山工場の北側の水田で、約4000m²を対象にしています。現在までに鎌倉時代の溝や柱穴が見つかっていますが、これまでの調査でもこの一帯が鎌倉時代の集落を検出しており、今回の遺構もその一部と考えられます。

(4) (仮称) 第四中学校予定地の試掘調査

12月18日より、水保町字三十一番地一帯で、第四中学校新設工事に先立つ事前の試掘調査を開始しました。約47000 m²を対象にしており、昨年未までに全体の約3分の2にあたる部分で88ヶ所の試掘を完了しました。ほとんどの試掘溝では、耕作土を取り除くと砂質土ないし砂層が確認され、これにつづいて青灰色か暗青灰色のシルト層が地面より約2 mまで続いています。この直下で茶褐色のスクモ層が堆積していますが、各層には遺構や遺物は確認できませんでした。ただ、予定地のほぼ真ん中で、茶褐色の砂質土^{ちゅうかつしよく}が耕作土より60cm程下で見つかり、土錘^{どい}や陶器が出土しています。調査はこのあと残り部分について行ない、1月中に終了する予定です。

※ シルト層 砂と粘度との中間の細かさの土
スクモ層 草木などの根や葦、萱などの枯れたものを含んだ土層

(5) 下長遺跡の調査

古高工業団地造成に伴う下長遺跡の調査は、4月より始めて既に9ヶ月が済みま
した。現在の調査は、調査地を北西方向に貫く旧河道内に埋没する水田遺構の検出
作業と、この旧河道の南西側の微高地上に立置する集落跡の発掘作業を行なってい
ます。水田は、その面より出土した須恵器より、古墳時代後期に営まれたものと想
定することができます。しかし、水田耕作にかかる導水施設や溝は見つかっておら
ず、畦畔と思われるものを確認しているだけです。旧河道の南西側の調査は、弥生
時代後期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居が7棟と、掘立柱建物が見つかって
おり、竪穴住居は周囲に溝を巡らす特異なタイプと見るすることができます。今後、こ
のような住居の類例や出土遺物を比較検討することにより、性格を明らかにできる
ものと思われます。

※※※

去る12月3日、下長遺跡で「体験学習会」を開催したところ、小学生ら約70名近
くの参加がありました。当日はピットとよぶ小さい穴の発掘調査とまいきり方法で
の火おこし、粘板岩を磨いて石器を作ることに挑戦をしてもらい、古代の生活の一
端を経験していただきました。今後もこうした催しを開催していく次第です。

§ お知らせ §

1月26日は「文化財防火デー」です。昭和24年のこの日、奈良県法隆寺金堂の火
災で壁画の大半が焼失し、このあとも松山城が焼失しました。こうした貴重な文
化財を火災から守ろうと、金堂が焼けた日を「文化財防火デー」として定めて、全
国で文化財防火運動が展開されます。守山市では今年、1月21日に岡町の西隆寺で
地元の方々と消防機関が一体となって防火訓練を行なう予定です。